

国際粉体工業展東京2010を終えて

Report on POWTEX TOKYO 2010

東京粉体工業展委員会 副委員長 矢澤 明人
Akito YAZAWA

1. はじめに

今年18回目を迎えた東京での粉体工業展は、12月1日から3日までの3日間、東京ビッグサイトで開催された。1996年の第11回以降は幕張メッセで開催されてきたが、今年からは、以前より出展者、来場者から希望の多かった東京ビッグサイトで開催することになった。従来4日間の会期で開催されていたが、今回から3日間となった。今までの幕張だと、時間的な制約からご来場できなかった方々にも、今回は来ていただけるであろうと来場者増加を大いに期待し開会の日を迎えた。

会場の広さは、従来の20,250平米から25,690平米と広くなり、余裕をもった広々とした会場の雰囲気となった（写真-1）。今回の開催テーマも従来どおり「この一粒…夢をかたちに一粉の技術」とした。通常の機器展示に加えて、最新情報として「ナノパーティクルテクノロジー」「クリーンエネルギー」「米粉」「二次電池」の特別展示ゾーンを設け、出展企業によるミニプレゼンテーションと、専門講師によるフォーラムが3日間通して開催された。

定番の「粉じん爆発情報セミナー」が2日に、「ナノ物質ばく露防止技術セミナー」が3日に開催



写真-1 東京ビッグサイト

された。また今回、会場の中央に設けられた「粉の広場」では、2日に「アカデミックコーナー」が、「粉体シミュレーションへの誘い」、「粉体技術機器・装置 博物館コーナー」、「パウダーテクノロジーシアター」、毎回好評の「技術相談コーナー」などが3日間通して実施、開催された。初日の午後にはリチウムイオン電池に関する特別講演が開催され、開会前日と開会初日の2日間に亘って粉体工学会秋季研究発表会が登録者数219名で会議棟101～104を使用して開催された。

2. 開催概要

出展者数は、前回比+3社の265社。展示小間数は前回比-2小間の941小間と、ほぼ前回と同様のものとなった。

入場者数は、12月1日	4,043名
12月2日	5,015名
12月3日	5,823名
合計	14,881名

（新しい集計方法：受付時の入場券枚数および事前登録プリント枚数の合計カウント。主催関係者・リピーターは除く）

3日目は早朝、雨風が強く、心配されたが、開場時には雨も上がって、おおむね天候に恵まれた3日間だった。

2-1 オープニングセレモニー

展示会初日の午前9時50分から東3ホール受付前特設会場において関係者多数列席のもとオープニングセレモニーが開催された。最初に主催者である(社)日本粉体工業技術協会 大川原 武会長の開会挨拶、次に東京粉体工業展委員会 谷本友秀委員長の開会宣言に続いて、来賓の経済産業省製造



写真-2 オープニングセレモニー

産業局産業機械課課長補佐 伊藤恒之氏、粉体工学会会長 日高重助氏、大川原 武会長、真鍋 功副会長、増田弘昭副会長、谷本友秀委員長によりテープカットが行われ、初めての東京ビッグサイトでの3日間の展示会の幕が切られた（写真-2）。

2-2 開催記念レセプション

初日の17時30分から東京ビッグサイトレセプションホール A において、約270名の出席のもとに開催された。最初に大川原 武会長の挨拶、経済産業省 伊藤恒之氏、(社)化学工学会会長 中尾真一氏の来賓祝辞に続いて粉体工学会会長 日高重助氏の乾杯でパーティーが始まった。谷本委員長の中締めで盛会のうちに19時30分に終了した（写真-3）。



写真-3 開催記念レセプション

2-3 特別講演

初日の15時から16時30分まで会議棟レセプションホール B にて旭化成(株)フェロー吉野 彰氏により「リチウムイオン二次電池の開発経緯と現在の状況」の演題で特別講演が行われた。参加者は247名と広い会場は満席の盛況であった。約15年にわたるリチウムイオン二次電池の開発の歴史に始まり、ハイブリッド、EV（電気自動車）、PHV（プラグインハイブリット車）車などの今後の普及見込みに関しての予想をまとめて講演は締めくくられ

た。リチウムイオン電池車の今後の一層の普及には電池本体のコストダウンは欠かせないが、1回の充電で走れる距離を延ばすために電池は大容量、割高になる。しかし、走行中に何度でも充電できる「ワイヤレス電源供給」の充電システムが進歩すれば大容量の電池は必要なくなり大幅にコストは下げられるとの指摘は新鮮な視点であった（写真-4）。



写真-4 特別講演 吉野 彰氏

2-4 最新情報フォーラム

特別展示ゾーンにおける各社の展示、ミニプレゼンテーション、1日目の「ナノパーティクルテクノロジー」、2日目の「クリーンエネルギー」、3日目の「米粉情報」と「二次電池」に関するセミナーが会場内特設会場で多くの熱心な参加者を集めて行われた。特に二次電池関連の2つの講演は、最近頻繁にマスコミに取り上げられている人気のテーマのせいも、参加希望者が会場に入りきらずに、周りで立って聴講するほどの盛況であった（写真-5）。

12月1日 ナノパーティクルテクノロジー関連

参加者：175名

10：30～11：30

「超臨界水中での有機無機ハイブリッドナノ粒子の合成」 東北大学 教授 阿尻雅文氏

11：30～12：30

「生産用マイクロリアクターによる液滴、微粒子の厳密製造法」

京都大学 教授 前一廣氏

12月2日 クリーンエネルギー関連

参加者：167名

13：00～14：00 「地下資源文明からの離陸」

東北大学 教授 石田秀輝氏

14：00～15：00

「太陽光発電—21世紀の選択」

東京工業大学 特任教授 黒川浩助氏

12月3日 米粉情報関連 参加者：112名
 11：00～12：00 「米粉ビジネスの展望」
 (財)日本穀物検定協会 参与 萩田 敏氏
 二次電池関連
 13：00～15：00 参加者：161名
 (他に立ち見多数)
 13：00～14：00
 「二次電池革新のための新規材料技術」
 東京工業大学 教授 菅野了次氏
 14：00～15：00
 「リチウムイオン二次電池と粉体技術」
 西美緒技術研究所 所長 西 美緒氏

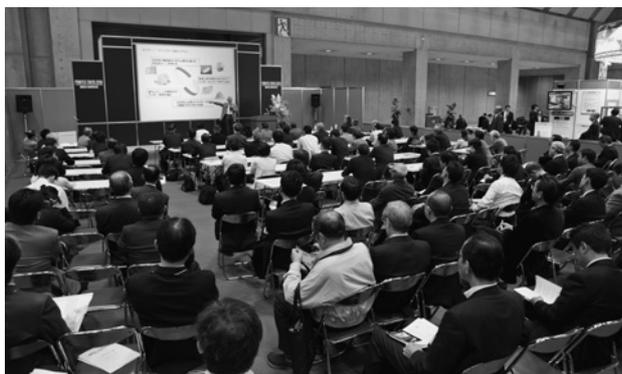


写真-5 最新情報フォーラム

2-5 粉じん爆発情報セミナー

12月2日 13：15～16：40

会議棟レセプションホール B

毎回好評なセミナーで、今回は164名の参加者があった。

今回はトピック情報として危険物乾燥機への爆発放散設備に関する行政の見解について紹介するほか、①近年明確となってきた、粉体貯槽における着火原因としての静電気の危険性と、具体的な対策についての研究成果、②新たに制定された協会規格の内容・特徴と技術的背景などについて4件の講演が行なわれた。

2-6 ナノ物質ばく露防止技術セミナー

12月3日 10：30～12：30 粉の広場 隣接特設会場
 ナノ物質の安全性向上のためのセミナー

参加者：131名 (他に立ち見多数)

2-7 製品技術説明会

12月1日～3日 11：00～16：00

展示会場内A・B・Cルームにおいて全47セッションの各社の製品技術説明が行なわれた。参加者延べ人数：2,107名 (写真-6)。



写真-6 製品技術説明会

2-8 学生ツアー

12月1日 10：00～13：30

展示会場および東1ホール主催者事務室

参加者：ツアー82名

(学校19名・企業49名・関係者14名)

学生交流会103名

(学校19名・企業49名・関係者35名)

大学の先生方に引率されて、午前10時半から学生、各企業の新入社員、就職内定者が数グループに分かれて展示会を見学した。12時過ぎからは全員一堂に会して交流会が開催され、和やかな雰囲気の中、学生、新入社員、就職内定者と、先生方、人材育成委員会を始めとする協会関係者との懇親の場がもたれた。

多くの若者が粉体業界に興味を持ち、理解を深め、一人でも多くの優秀な人材が当業界に加わることを願う (写真-7)。

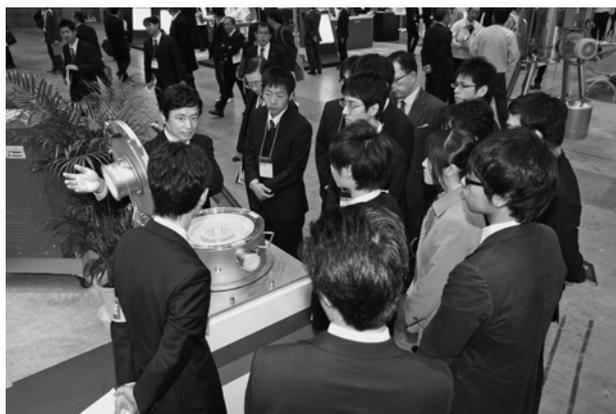


写真-7 学生ツアー懇親会

2-9 粉の広場

*アカデミックコーナー

プレゼンテーション (12月2日 10：30～11：45
 粉の広場隣接特設会場)

参加者：44名 (他に立ち見多数)

若手研究者の粉体に関する最新の研究を発表す

るプレゼンテーションには15名が参加し、5分間という限られた時間内で熱心な発表を行なった(写真-8)。

ポスターセッション(11:45~12:30 粉の広場)が実施された。ポスターセッション終了後に厳正な審査が行なわれ、12時半から開催された表彰式で次の3名がそれぞれ表彰された。

最優秀研究賞

白井 孝 名古屋工業大学
若手研究イノベーター養成センター

研究奨励賞

長島一樹 大阪大学 産業科学研究所

渡辺秀夫 名古屋工業大学
セラミックス基盤工学研究センター



写真-8 アカデミックコーナー

*粉体シミュレーションへの誘い

1. 粉体シミュレーションに関する講演
会場内特設会場 参加者: 156名
12月2日 11:30~12:30
2. 「粉の広場」会場3ヶ所で粉体シミュレーションの動画が期間中終日上映された。

*粉体技術機器・装置 博物館コーナー(写真-9)

参加企業: 11社

粉体機器、装置の原点を知っていただくため、当協会会員企業が保存する貴重な歴史的粉体機器をお借りし、粉の広場の一角に展示した。

*パウダーテクノロジーシアター

会場内特設会場のスクリーンの上に、研究者から提供された粉に関する貴重な映像およびTV放映された「すごい粉ベスト3」の映像が上映された。

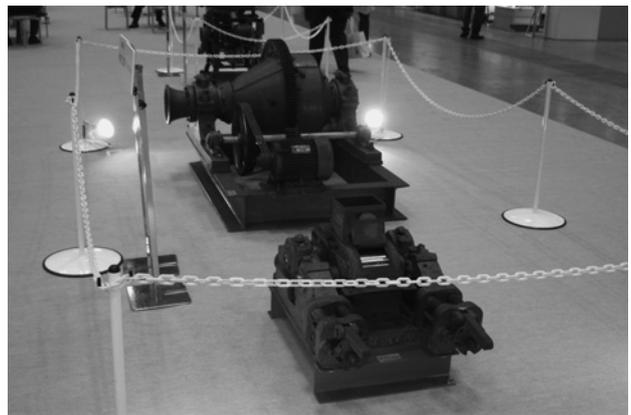


写真-9 粉体技術機器・装置 博物館コーナー

12月1日 13:00~16:30
12月2日 15:30~16:30
12月3日 15:30~16:30

*技術相談コーナー 期間中3日間 4ブース
相談件数: 88件

*社団法人日本粉体工業技術協会コーナー
分科会コーナーおよび標準粉体展示コーナー

3. おわりに

世界的な景気後退、円高進行など、日本経済にとっては大変厳しい環境の中で計画、開催された今年の粉工展であった。念願の東京ビッグサイトでの開催で、会期は4日間から3日間へと短縮され、年末の12月開催となったが、出展企業の熱意とご理解ご協力により、大変盛会のうちに3日間を終えることができました。出展者、来場者、関係者の皆様に深く感謝申し上げるとともに、この記事がお手元に届く頃には、出展された企業においては、この展示会の成果が大きく実を結んでいることを願っております。



やざわ あきと
矢澤 明人
(株)ダルトン 顧問

〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町13
東京洋服会館
TEL: 03-5261-3826
Email: a-yazawa@dalton.co.jp